

## 2013年1月13日\_荒子川調査\_植物記録写真

文: 堀場

### 一覧

荒子川公園内およびその周辺

- a. トウダイグサ科 ナンキンハゼ *Sapium sebiferum*

荒子川の縁

- b. イネ科 ススキ属 オギ, ススキ, または ヨシ属 ヨシ, または ツルヨシ, または  
キク科アキノキリンソウ属セイタカアワダチソウ の混生  
c. セリ科 チドメグサ属 ウチワゼニクサ *Hydrocotyle verticillata* var. *triradiata*  
別名ミニマッシュルーム  
d. カヤツリグサ科 カヤツリグサ属 クグガヤツリ *Cyperus compressus*  
e. タデ科 スイバ属 ギシギシ *Rumex japonicas* ?

### 荒子川公園内およびその周辺

a.

公園周辺でスズメがこの木の实をついばんでいました。

写真は公園内に植樹されていたものです。

ナンキンハゼ(トウダイグサ科 *Sapium sebiferum*)という木です。



↑ 実の写真・手タレ: 秋山様(軍手着用)

この実の表面は脂肪に富んだ白色の蠟状物質で覆われています。

ムクドリもこの実を食べるそうです。

鳥類がこの実を摂食し、蠟状物質を消化吸収して種子を排泄することで、種子分散が起こります。

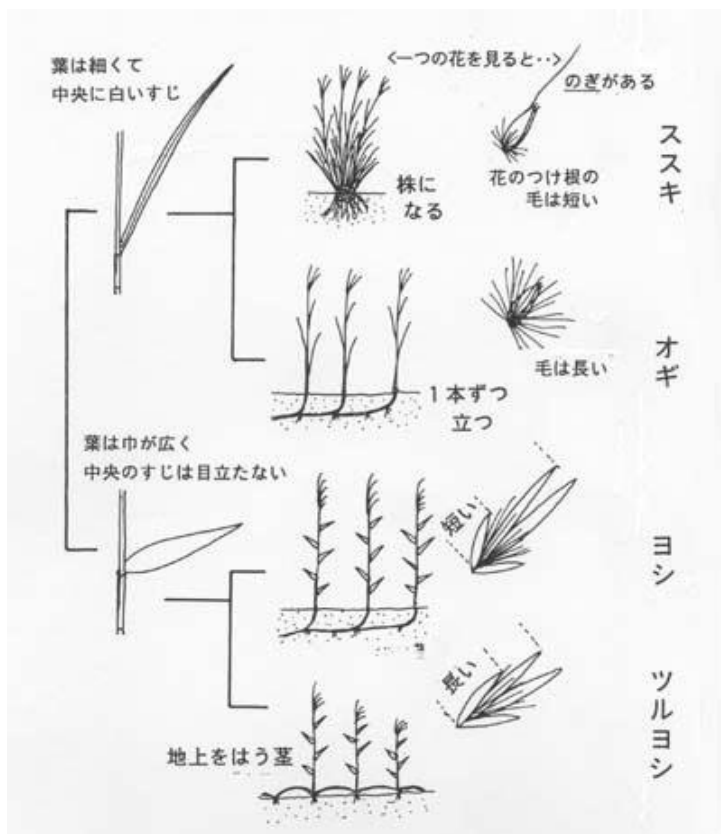
## 荒子川の縁

b.



写真に写っていそうな植物の名前は、  
ススキ(イネ科 ススキ属 日本全土)、  
オギ(イネ科 ススキ属 北海道～九州)、  
ヨシ(イネ科 ヨシ属 日本全土)、ツルヨシ(イネ科 ヨシ属 関東以西の本州～四国～九州)、  
セイタカアワダチソウ(キク科 アキノキリンソウ属 北アメリカ原産)。

見分け方、というのが図で出ていたのでそれも同時に見ていただくと植物を観察するときのポイントが分かります。



[http://www.hirahaku.jp/web\\_yomimono/tantei/ogkensak.html](http://www.hirahaku.jp/web_yomimono/tantei/ogkensak.html) より



る。

上がススキ、下がオギ。ススキの小穂には長い芒があり、オギにはない。ススキは基部の毛は小穂とほぼ同長、オギでは小穂の3~4倍。

図鑑「身近な野草・雑草」より

以上を踏まえまして、一個体を少々拡大して撮っておりますので見てみましょう。



オギではないかと思われまして。  
いかがでしょうか。

C.

ウチワゼニクサ(セリ科 チドメグサ属 *Hydrocotyle verticillata* var. *triradiata*)

緑色で丸葉の多年草で、水田や湿地などに多く自生します。

今回の調査では川の浅瀬にて水に少し浸かった状態で発見しました。



北米原産ですが観賞用として各国に輸入され、日本や南アメリカ、アフリカ、オーストラリアなどで野生化しています。

育てやすく繁殖も容易で水鉢や鉢植えなどのアレンジでよく使われます。水さえ切らさなければ繁殖することです。ガーデニングやアクアリウム界ではミニマッシュルームと呼ばれます。



↑ 群生の様子・・・撮影: 本堀様

d.

**クグガヤツリ**(*Cyperus compressus*)  
(カヤツリグサ科 カヤツリグサ属)

カヤツリグサ科の一般的特徴

単子葉植物。

最も有名なのはパピルスですが、  
有用植物は少ないです。

全世界で約 70 属 3700 種があります。

細長い葉を持つ草が多いです。

花びらを持たず、鱗片が重なり合って小穂  
を形成します。小穂を花茎上に単生するか  
多数が集まって花序をなします。

花序の基部には苞があります。



← ↑ のり面のコンクリートの隙間から  
生えていました。

他の植物の葉と一緒に  
生えているものもありました。↓



クグガヤツリの特徴

日本のカヤツリグサ属の中では、小柄であることと、  
その割に大きい小穂から判別できるそうです。  
草丈は普通は 15-30cm、特に乾いたところや  
刈り込みのある場合には数 cm にしかならないことも。

全体に明るい黄緑色で、つやがあって無毛。

花序は茎の先端に一つつきます。

その基部には葉状の苞が数枚あります。

花序は小穂が 3-10 個ほど密に集まったものを  
単位として、花茎の先端にこれが一つ生じるか、  
さらに枝を生じてその先にもつきます。

小穂は長さ 1-2.5cm、幅 2.5-3mm。草本体に比べて  
小穂が大きいです。鱗片には太くて長い芒がある  
ので、小穂全体の縁が大きく鋸歯を持っているように  
見えます。鱗片は緑色で濃い色が出る部分はない  
のですが、内部の果実が成熟すると黄褐色になって、

これが鱗片の側面から透けて見えるため、小穂の中心付近が黄色っぽく染まって見えます。

分布: 日本では関東以西の本州、四国、九州～琉球列島、全世界の熱帯域。



杉岡様に同定していただきました。

他参考: 米倉浩司『高等植物分類表』 邑田仁、北隆館

e.

ギシギシ(タデ科 スイバ属 *Rumex japonicus*) ?

ギシギシの分布: 日本全国

ギシギシの特徴

多年草。

やや湿った道ばたや水辺、湿地などに

生えます。高さは、40–100 cm。

根もとに生える葉は、長さ10–25 cmの

長楕円形で長い柄、基部がハート形に

なります。上部の葉は柄が無く幅も狭くなり

ます。葉の縁は大きく波打つ。

茎の上部で分枝し多数の花序を出します。

緑色で小さい花を輪生させます。

花は花弁をもたず、6片の萼からなります。

花期は、6–8月。

利用

若芽は食用に、根は薬用にします。



杉岡様に同定していただきました。

他参考: 日野 東『日本の野草・雑草』成美堂出版  
長田武正『原色野草観察検索図鑑』保育社  
林 弥栄・平野隆久『野に咲く花』山と溪谷社